西南学院大学
図書館報

№ 91
昭和57年（1982年）4月26日発行
〒814
福岡市西区西新6丁目2番92号
西南学院大学図書館

「生涯の愛読書」との出会い

図書館長　糸園辰雄

入学――おめでとう。

在学生の諸君も、それぞれ新しい学年を迎え、緊張のうちに、今後の大学での学生生活をどう過ごそうかと考えている時だと思います。

時の経過はまことに早く、アッという間に大学生としての暮しは終ってしまいます。新入生の諸君は入学の当初の、在学生の諸君は年度のはじめのただ今、よほどしっかりした決心で大学での、自分のプログラムを立てておく必要があります。

そのプログラムのなかに次のことをぜひ付け加えるように一人の先輩として提案したいと思います。

――生涯を通じ愛読する本を見つけること。

新入生の諸君の多くは、現在の入試制度のもとでは自由な読書の機会は少なかったに違いありませんし、活字離れの進んでいる現在、在学生の諸君もまた、読書の楽しみをじゅうぶん味わうほど読書の習慣が身についていると思う人は或いは少数派かも知れません。

そうであればあるだけ生涯を通じて何度も繰りかえして読むに足りる本をぜひとも発見するように自らを励まし、努力してもらいたいのです。

本は先人の素晴しい遺産です。欲する人には誰にでも得ることのできる貴重な財産です。知的な宝庫です。そればかりではありません。

打ちひしがれている時、愛読書は、私たちに再び立ち上って闘う勇気をさずけてくれ、失意のどん底にある場合には暖かい、慰めを与えてくれます。生涯を通じて人生の浮沈の折々に、とりわけ不遇の時には愛読書は力強い友として私たちを支えてくれるものです。

私は今でもロマン・ロランの「ジャン・クリストフ」を読み通した若い日の悦び以来、何度か繰りかえして読み、そのつど全身に力が漲ってくる思いがします。思いどおりにいかない時はことさら、そう感じます。

福沢諭吉の「福翁自伝」からは掬みつくせない滋味を堪能できますし、志賀直哉の「暗夜行路」から宿命を背負った人間の、倒れては立ち上る生き方に共感します。山田盛太郎の「日本資本主義分析」を読んで眼からウロコが落ちた思いがし、経済社会分析の武器として経済学の見事さに圧倒されました。

生涯を通じて愛読する書物は一冊に限ったものではありませんが、せめて一冊の書、それによって勇気を与えられ、人生をより豊かにできる愛読書――古い言葉でいえば「枕頭の書」との出会いをもってもらいたいと思います。

「出会い」はもちろん、「書物」だけではありません。親友、先生、人生の行路を支える、そのような人々との「出会い」も大切です。それが諸君の人生を方向づけ、稔り多いものにするに違いありません。

しかし「愛読書」、あるいは「枕頭の書」もまた諸君にとって情熱と勇気の根源となり、諸君の人生をより味わい深いものにするに違いありません。ぜひとも「生涯の愛読書」との出会いを果たしてくれるように願ってやみません。

商学部教授（商学総論・中小企業論）

特集 図書館利用の勧め

特に新入生諸君へ

文学部教授 山中耕作

本学図書館は蔵書38万5千冊、新聞・雑誌3千6百種、西日本有数の大学図書館である。言うまでもなく図書館は大学の資料センター、文科系大学の中枢設備である。幾多の先輩たちが、自らの学問と将来とを拓り開くべく刻苦勉励してきた場所である。図書館もまた、学生たちが迅速かつ容易に資料を検索できるよう努力してきた。諸君にも図書館に慣れ親しんでもらわねばならない。

まず、講義の予習・復習だが**指定図書**がある。2階閲覧室に別置してある。いったい大学の学問は講義ノートの整理だけでは不十分。受講するからには、コツコツと関係の書物を読み漁って、受講生自らが講義の主題を深めなければならぬ。指定図書は担当教授が、最低限これだけは、と指定した書物である。通例、参考文献・注・参照が多く記載されている。手にとったら、それ1冊の読了にとどめず、参考文献は総当たりしてほしい。

次に自ら課題を持った場合、あるいは論文提出を命ぜられた場合である。まず**参考図書**と**目録**に当たることになる。参考図書は各階閲覧室に別置されている。辞書・事典・便覧・年鑑・索引がある。これらは明確な事実・情報を得るためのもの。特に百科辞書・事典は一般的な概念を知り、検索・導入に役立つ。目録カードは、3階ホールにある。著者・書名・分類目録がある。38万冊もの蔵書の中から検索するのであるから、よほど丹念に捜さねばならぬ。習熟しなければならない。件名目録がないのは無念だが、なまじNSH（日本件名標目表）に依った目録より、自分でカードを用意して作った方がよい。K教授は、若いころから毎夜10時まで図書館に籠って独自の件名目録を作ってこられたが、いまや猛烈な量で、夜はカード箱に挟まって寝ておられる、といううわさがたったほどで、K教授の実証的な学風の基礎をなしている。資料整理用の各種のカードは市販されているから、各自用意工夫するとよい。さらに5階の**参考係**には『国書総目録』『学術雑誌総合目録』はじめ各種文献要覧がある。もし本学で架蔵していない場合、参考係に申し出れば、**相互利用の制度**により、どこの図書館からでも借覧できる。いずれジャパンマークが充実稼動すれば、すべての書誌・雑誌が瞬時にわかるようになる。全くの余談だが、もしそうなれば、本学図書館にも書庫のいらぬ時代がこよう。さて雑誌だが、雑誌は学問の最前線である。3千6百種の雑誌も自在に読みこなし、カード化しておくこと。「行き詰まったら関係雑誌を創刊号から今月号まで全巻読んでみよ」とはT教授のお勧めだった。

ところで、どんな大図書館であっても、これを使いこなすには普段が大事である。N教授は、しばしば学生たちに**図書館の漫歩**を勧めておられた。幸い本学図書館では、蔵書のおよそ⅓、10万冊を開架している。公共図書館と違うところは、主題別配架になっていることだ。2階閲覧室に独語独文学・中国語中国文学・一般教育関係、3階閲覧室に商学・経済学・文化人類学関係、4階閲覧室に法学・英語英文学・仏語仏文学・児童教育関係がある。開架制の長所は、利用者が1冊ずつ手にとって見ることができることだ。自分の専門とその周辺に限らず、足をのばしているうちに、思わぬ資料の発見もあり、実に楽しいもの。とどのつまり、図書館を使いこなすには足繁く通って使い慣れるしかない。書物そのものもそうだ。ただ漫然と読んでいたのでは落伍する。私の師匠I教授は博覧強記で有名な人だが、若いころ上野図書館の蔵書をことごとく読破し、新聞種になったことがある。「同じ本を2度繰り返して読むようなことはすまい。1度で暗記してしまおう、と気迫をこめて読んだものだが、今の若い者は――」とニコニコ顔で言われる。ゾッとした私は、痛棒を食らった思いでコソコソ福岡に逃げ帰ったのだが、つい3月のことである。書物そのものと取り組むにも、これまた普段からの心掛け。「習うよりも慣れろ」である。諸君も毎日、気迫をこめて読書三昧、まず閲覧室に座ってみませんか。（日本文学）

特集　図書館利用の勧め

図書館を上手に利用しよう

本館司書　品川寿子

中学から高校へ、高校から大学へ入るまで、必死に勉強して好きな本もおちおち読めなかったので、これから一日に一冊ずつ本を読みあげようと思う人。自習のために利用しようと思う人。試験勉強のために利用しようと思う人。図書館があるので入ってみようと思う人。待ち合わせ・時間つぶしに図書館を利用しようと思う人。図書館など無縁と思う人。図書館業務に携っていて、時々感じることは利用者にとって図書館とはなんだろうかと利用者の要望を十分に反映させた満足のゆく「魅力的」な図書館と云えるのであろうかということです。

私達は図書資料と図書館員と利用者とが一体となってはじめて図書館の機能が達成されて行くものであると思っています。そのためには私達も図書資料に対する認識を深め、資料が迅速に、正しく整理され、資料を検索するための目録作成にしても利用しやすいように努力しなければならないと思うのです。情報検索のための資料も必要でしょう。

利用者のみなさんもこれらの資料を充分に活用するために、入学時にオリエンテーションやガイドブックとして大学図書館利用案内、図書館イラスト・マップなどを配布しておりますので良く読んでください。わからないことがあったらどしどし質問してください。利用者に対するアンケートを行なった時、カード目録の配列順がわかりにくい、カードに記載されていることがわからない。などという意見がありました。館員と利用者のコミュニケーションが生まれることによって、私達は日常業務において張りがあり、利用者は図書館の重要性を認識することになるだろうと思うのです。

卒業期を「悲しみよ、こんにちは」と味気ない心持ちで迎えないためにも日頃の図書館の利用をおすすめします。

（洋書係）

「新入生へひとこと」

文学部英文学科4年　実平要子

春たけなわ、といった感じのする今日このごろ、キャンパスには新入生歓迎の騒めきが絶えません。図書館にも、そろそろ新しい顔が見えはじめる頃でしょう。

西南の図書館はと言えば、なんといっても前期、後期試験の最中が最高の人出となり、二階以上などは席もあいていないこともある程です。いつもは、のほほんと構えているように見える人でも、この時は、さすがに真剣な表情となり、焦りに駆られながら、このささやかな特権を利用します。私もその一員です。しかし、勉強にしろ、スポーツにしろ、日頃からこつこつと鍛練を積み重ねてきた人は、やっぱり強いなあと思います。いろんな人との出会いの中で、他の人には推し測れない中味の大切さを感じさせられました。私などは（といっても似たりよったりの人はいてくれるのですが）土壇場も土壇場どうにもこうにも逃げ場がなくならないと、何事も実行しないという困った性格なので、日頃の怠慢の報いというものを、もう何回うけてきたことでしょうか。

ところで、図書館という所は、不思議な所でして、そこにいると、なんとなく周りから充電を受けているような、そんな気分になるんですよね。まさに〝学生時代〟といったその雰囲気は、言葉では言い表わせない、なにかしら魅力めいたものを1人1人に与えてくれているようです。

子供の頃、飼育係であることを一番の誇りとしていた私が、安らぎを感じた場所は、飼育小屋の中でした。それは、責任感との闘いの中で覚えた充実感だったように思えます。図書館は、うさぎ小屋ではありませんが、ふとその頃を思い出させるのは、なぜでしょうか。静寂さの中で、自分との闘いがなされる場、たくさん利用法があると思います。暇な時は、書棚をうろうろ見て回るのもよいと思います。——4月です。爽やかなスタートを!

外国図書館シリーズ

—— アメリカ ——

懐かしのライリー図書館

ワシタ・バプテスト大学

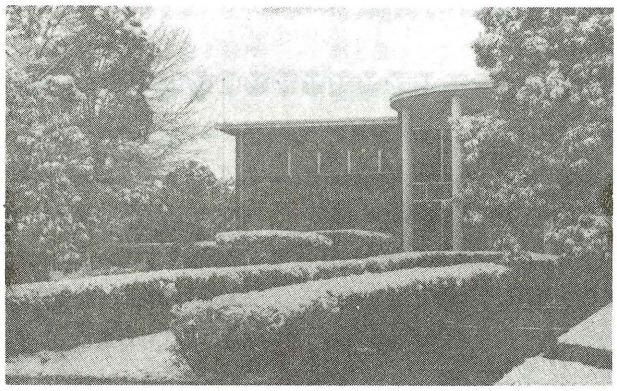
Ouachita Baptist University, Riley Library

Arkadelphia, Arkansas 71923

商学部57年卒業　岡本航児

手入れのよくいきとどいた緑の芝生、そこを縦横に走る白い通路、そして通路沿いに置かれている白いベンチ—この美しいキャンパスのほぼ中央に位置している小さいながらも、なんとなく気品のある建物が、私の留学していたOuachita大学の図書館—ライリー図書館だった。

一見、図書館というよりは博物館という感じで、特に入口の大きな柱はギリシャの宮殿を連想させる。しかし、厳めしい外観に反して、いったん中に入ってみると和やかな雰囲気がひしひしと伝ってくる。そこは私が以前に通った、どの図書館とも違う別の世界だった。入口から入ってすぐ右の学習室では、Tシャツにジョッギングパンツといういでたちの男女学生が、時には小さなグループを作って和気あいあいと勉強に励んでいた。学習机も丸いのやら四角いのやら、とバラエティーに富んでいて、まるで喫茶店のテーブルのようでもあり、自然と無理な緊張感がほぐれてくる。少し中へ進むと細い通路のわきに新聞、雑誌の閲覧コーナーがあり、学生達はそれらをおもむろに手にとって、好き勝手な場所で読んでいる。ある者は机で、またある者は通路に点在する椅子や高い所にある本を取るための足台に腰かけて、という具合である。



ライリー図書館正面

ライリー図書館では、入館の際、チェックなどは一切なく何を持ち込もうと自由であり、図書館全体が学習室のような形態をとっている。持ち物をロッカーに入れたり、学生証を提示したりする面倒がないので、図書館と聞いただけでジンマシンが出るという図書館アレルギーの人も、割と気楽に足を向けることができる。特に、集中力の長く続かない私などにとっては、この出入りが自由という制度は最大の恩恵であった。勉強に疲れたらコーラでも飲みながらジュークボックスから流れてくる音楽に耳を傾けたり、友人と話をしたりして気分転換をし、再び図書館に戻ってくることが頻繁におこなえたからである。そのおかげで留学中ずっと、図書館をまるで自室であるかのように利用することができたように思う。

図書館の運営はほとんど学生アルバイトに任されており、本の貸し出しから在書チェックまでの全てが彼らの仕事であった。彼らが同じ学生ということもあって何となく親近感があり、何かわからないことがあっても気楽に尋ねることができ、さながらクラスの延長のようでもあった。

図書館は朝9時から夜9時まで開いており、日曜は休館となっている。日曜でも勉強したいという人は、隣りつづきのヘンダーソン州立大学で勉強することが許されており、試験前などには、ぶ厚い本をかかえた我が校の学生が、忙しくキャンパスを行き来していたのを思いだす。地下一階はTVルームになっていて、左右に一台づつテレビが設置されていた。アメリカでは授業でスライドやテレビを利用することが多いようで、私がとっていたBusinessのクラスでも数回、この部屋を使っての講義が行われた。この例に洩れず、我がライリー図書館にも2万3千あまりのフィルムやスライドが納められており、コピーマシーンの横に置かれた5、6台のスライド、プロジェクターを使っていつでも最新の情報が得れるように配慮されていた。

図書館一つとってみても、スライド、フィルム、ひいてはコンピューターまでも設置しているところなどは機械文明国—アメリカの国柄をよく表わしていて興味深い。そして、それらの設備を宝の持ちぐされにはしないで、フルに活用している学生の姿に、より深い感銘を受けた。　(55年9月より56年6月まで留学していました。)

学生の図書館利用に関するアンケート調査から

―要望に答えて―

図書館では1月の中旬に、学生の図書館利用に関するアンケート調査を実施しましたが、その集計結果につきましては、図書館報のNo.90（昭和57年3月24日発行）の附録として報告したとおりです。そのときいろんな意見、要望等が出され、学生諸君の切なる願いというものにふれて、更に努力、改善しなければ、と強く感じた次第です。

そういう意見、要望の中から集計結果の報告では表わせなかった要望等、また誤解されている点等もあるようですので、その中からいくつかを取り上げて回答します。

（1）図書館所蔵の資料しか複写できないということですが、持ち込みのノート類のコピーも許可してほしい。

回答： 図書館に複写機を備え付けて利用者にサービスを提供しているのは、図書館所蔵の資料に対して、禁帯出とか、特定の一部分だけ必要で借り出す必要もない等の理由からです。あくまで営利を目的としたものではなく、図書館所蔵の資料に対して上記のような理由から複写の必要が生じたときに、前もって複写の許可をとり、文献複写申込書に必要事項を記入したうえで、業務の合理化のためとも併せて、即座にコピーができるようにと、コイン式複写機を設置しているのですから、持ち込みのノート類等は生協その他学外のコピーサービスをやっているところでお願いします。

（2）図書館では静粛を主旨として勉強、読書をしているのに、まわりで大声でおしゃべりしている者がいる。こちらが注意すると双方とも気まずい思いをするので、図書館員の方から注意していただき、絶えず館内秩序を保つべく努めてほしい。

回答： 図書館では時間の許す限り、学習室、閲覧室を巡回して秩序を乱す者については、その都度注意したり、館内放送で注意を呼びかけています。おおせのようなことがあったかもしれませんが、今後とも館内秩序を保つよう努力して行きたいと思います。

（3）一時外出したい場合、いったん退館の手続きを経たうえでしか退出できないが、もっと簡単な手続きにしてほしい。

回答： 一時外出の手続きで、席を確保したままなかなか帰ってこない学生がいます。特に試験期は満員で席が不足する状態のときに、何時間も席を確保したまま外出されると、他の利用者の迷惑になるので、席の円滑な有効利用のため少々めんどうとは思いますがこういう手続きにしています。

（4）借出図書について引き続き借りたい場合、更新制度というものがあるのは結構ですが、自分が借り出したい図書を他人が借り出している場合はなかなか読めないで困りますので、もし借り出し希望のある図書については、更新を認めないようにしてほしい。いわゆる予約制度を設けてほしい。

回答： 現在もこのような更新時に他から利用申し込みがあっている場合は、更新を認めないことにしています。

（5）新着の学術雑誌も貸し出ししてほしい。

回答： 雑誌は1冊の号にいろんな記事が載っていて一人の利用者が読みたい記事がAだとしたら、他の者はその号のBという記事を読みたい、といったふうにいろんな記事が収載されています。また、もし貸し出しして紛失した場合欠号が生じたり、なかなか返却されない場合、製本もできなく、そのまま放置しておくと更に散逸の危険もありますので、教員も含めて全て館内閲覧のみとしています。

（6）冬季時の暖房、夏季時の冷房のききすぎがあるが図書館の方でたえず管理していただき、快適な学習環境を保つよう心がけてほしい。

回答： 暖房、冷房については省エネに努めるべく努力しており、たえず館内を快適温度に保つべく気を配っています。ただ暖房については設備的な面で、図書館では調整しにくい面もありますのでおおせのようなことが

何回かはあったかもしれませんが、今後とも省エネに努めながらも、快適な館内の温度を保つよう心がけて行くつもりです。

（7）教員免許取得のための教育実習期間中は、資料も沢山必要とするので、その期間中に限り図書の貸し出し冊数、期間とも増やしてほしい。

回答： 現在教育実習のためとして申し出により、期間の11日間を、郷里の出身校で実習をされる人が多くいますので、わざわざ来なくてもいいようにと、更新手続きを省いて実施しています。だから申し出のあった人に対しては21日間借り出しができることになるわけです。またその時期になると館内にもその旨掲示しています。

以上、充分満足のゆく回答とはなっていないかとも思いますが、その他の意見、要望等についての回答も含めて、必要な方は、2階のカウンターに申し出て説明を受けて下さい。 （本館司書 課長補佐・今永義純）

☆ ニュース・お知らせ ☆

＜図書館委員会＞

S57.4.8 ①学生の貸出図書について
②その他

＜人 事＞

退職 司書補 河谷まゆみ （S57.3.31付）

任用 司 書 小嶋 哲（資料係・国連） （S57.4.1付）
司 書 世戸口尚英（閲覧係） （S57.4.1付）
司書補 田中 みえ（資料係） （S57.4.1付）

編集後記

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。授業も始まり、やっと少し落ち着かれた頃と思います。

今号は新入生の皆さんにも、ぜひ図書館に通うことを生活の一部に入れていただきたいと特集を組みました。

又、5面では先号でお届けしたアンケート調査結果に引きつづき、その中から、いくつかの要望についてお答えしています。あなたの図書館をより一層身近なものにしていただければと願っています。

グランドの歓声がおさまり、チャペルからの歌声がやみ、とっぷりと日が暮れてしまった頃にも、図書館は午後の九時まで開いています。 クラブ活動や授業に疲れた時、街中の騒々しさにうんざりした時、最も静かで落ちつける場所、図書館へ来られて、書物の間を〝散索〟してみるのも一考ではないでしょうか。 （首藤）

告 知 板

昭和57年度 **図書館行事予定表**

57年
2月6日（土）～4月9日（金）春季休暇
学習室閉室
2月9、10、12、13日は入学試験のため休館
4月6日（火） 新入学生利用指導（文・法）
7日（水） 〃 〃 （商・経）
5月11日（火） 学院創立記念日で休館
6月30日（水） 夏期長期貸出開始（9月19日まで）
7月10日（土）～9月4日（土）夏季休暇
学習室閉室
9月9日（木）～9月28日（火）前期試験
29日（水） 30日（木）大学休業のため休館
11月中旬 大学祭期間中学習室閉室
12月15日（水） 冬休長期貸出開始（1月18日まで）
25日（土）～1月7日（金）冬季休暇
学習室閉室
27日（月） 開館9：00～12：00
28日（火）～1月5日（水）年末年始の休館

58年
1月19日（水）～2月4日（金）後期試験
26日（火） 春休長期貸出開始
（卒業予定者は2月末日まで
上記以外者は4月22日まで）
2月5日（土）～4月9日（土）春季休暇
学習室閉室
中旬 入学試験のため休館
3月上旬 在庫調査で開架閲覧室閉室

休館・閉館その他行事予定については、そのつど、図書館の玄関に掲示します。